

# ヒナを拾わないで！

## 誘拐!?

右の写真は、シロチドリのヒナです。私たちから見ると飛べないで助けを求めているように見えます。実は人が近づいてヒナがおびえてうずくまっているのです。そのため、近くに親鳥がいても近寄ってきません。そこで親がいない迷子の飛べないヒナが落ちていると勘違いして拾ってきてしまうのです。これが、誘拐になってしまうのです。

ほくら  
**迷子**  
じゃないよ!



本音：お母さんが近くにいるのに、早くどこかへ行ってよ！

**連れて  
行かないで!**



ヒナから少し離れてると、親がやって来ました。

**地面にヒナがうずくまっていた。**

基本的には、ヒナに見えても羽がはえそろってればそのままにしておいて大丈夫です。巣立ち後で、飛ぶ練習をしているところかもしれません。人が近づくとヒナはおびえてうずくまってしまうし、近くに親鳥がいても近寄ってきません。そのため、まずはヒナから少し離れて親鳥が来るかどうか確認しましょう。また、鳥の種類によっては「ヒヨコ」のような状態でも歩き回ることができます。この場合飛べないからといって、すぐに保護しないでください。

**ヒナを拾ってきてしまった。**

できるだけ早くもとの場所へもどしてください。大抵は親鳥が近くにいるはずですが、拾った場所が道の真ん中、ネコやカラスにおそわれそうな場所である場合は、近くの木の枝などの安全な場所にそっと置いてあげてください。「ヒナが死んじゃうから」と心配して、もとの場所にもどすのを嫌がる人もいますが、野鳥は自然の生きものです。

**拾ったヒナをもとの場所にもどしたが、  
親鳥がこなかった。**

野鳥を育てるのは容易なことではありません。しかし、目の前の命を放っておくことはできないというのが人情です。様子を見ても親鳥がもどらない場合は、自然保護課や野生動物ドクター、救護施設に相談してみましょう。



ミフウズラのヒナ:ヒナを育てるのは容易なことではありません。

沖縄県自然保護課 TEL: 098-866-2243  
(平日 9:00~17:00) FAX: 098-866-2240